

資料

資料：公立学校における「縦割り班」の実践記録

Document：The Record of Vertically Divided Groups Practice in Public School

加藤 誠之（高知大学教育学部）¹

矢野 修（元高知県公立学校教諭・元三水小学校長）²

Masayuki Kato¹ and Osamu Yano²

¹ Faculty of Education, Kochi University

² Retired Teacher of Public Schools of Kochi Prefecture, Former
Principal of Samizu Elementary School

ABSTRACT

Mr. Yano has been trying, in his career as a teacher or a principal of public schools in Kochi Prefecture, the practice of “vertically divided group”. This paper is the record of this practice.

1. はじめに

矢野修（やの おさむ）氏は、1934（昭和9）年に高知市で生まれ、1957（昭和32）年に葉山東中学校に赴任した。その後、高知県内の公立学校を歴任し、三水小学校長を務めて退職した。高知大学では非常勤講師として、特別活動指導法を担当した。今回は、矢野氏が教員として高知県内の公立学校に勤務した際の「縦割り班」の指導に関する実践記録を取り上げる。

2. 山間地の小規模中学校での「縦割り班」の実践

(1) 「縦割り班」を始めるまでの経緯

山間地の小規模の全校生徒32名の中学校に赴任した事例である。私は、少人数の学校だからふんわりとした暖かみのある学校だろうと想像していた。ところが、実際には期待に反して男女の仲も悪く、掃除も協力せず、全体に悪いムードが支配していた。私が担任したクラスは、男子12名、女子5名の合計17名の担任である。男子と女子が対立しており、休み時間には男子が教室に残っていれば女子は教室の外にあり、女子が教室にいれば男子は教室に入らないという実情であった。男子は学校に来て一度も声を出さない男子が一人、いつも反抗ばかりしている男子が一人、知的な遅れのある男子が一人とばらばらの状態であった。女子の5人は普通でまとまっていた。

私は、クラスの子どもたち毎日けんかしており、発言する子も決まっている現状を何とかしたいと悩み、いろいろと試みた。しかし、どのやり方も成功しなかった。保育園時代から同じメンバーであるだけに、その壁は厚くどうしようもないという感じであった。

そこで私は、全校縦割り班の異学年の集団づくりを思いついた。この実践は、一人でできるはずもなく、全校・全教職員の同意が必要である。しかも、私自身も経験したこともない、見たこともない実践を提案するのだから相当な努力と時間を要した。初めて提案するのだから、①理論的にも筋が通り、説得力がある②実践に移して、やれる見通しがある③比較的やりやすく、少しの努力で全教員が取り組める④*かなり具体的な面まで原案に盛り込まれていなければならないと考えた。

以上のことを考慮し、①異学年集団づくりの教育的意義②今、取り組まなければならない理由③縦割り班の編制の仕方と活動④合同学活「全校縦割り集会」について⑤全教員の任務分担と具体的な仕事という項目からなるプリント8枚の原案を作成した。職員会の議論では質問が噴出し、2週間に及んだ。最後には、校長先生が「みんなでやってみよう」と踏み切ってくれた。教員全員が納得したわけではないが、校長先

生が「やってみて、問題があればみんなで協議し、修正すればいい」と言って下さったので、とにかく「縦割り班」の活動を始めることとなった。

(2) 班づくりと班担当教員の任務

名簿順・男女混合で、各学年の生徒が同数になるよう分配して5班を作った。最初は教師が班を編制し、班内で班長を互選した。2回目以降は班長立候補制で選挙を行い、当選した班長と教師とで班員を選ぶという方法に移行していった。校長・教頭を除いて教員が5名いたので、各教員を班担当の教員として各班の指導に当たるようにし、この教員を班坦と呼んだ。班坦の当面の仕事は、班会の指導と班内の色々な世話であった。私も、当面は一つの班の班坦を受け持った。

各クラスに配当されている週1時間の学級活動の時間を提供し合い、全校の生徒が集まる時間を作った。この時間を合同学活と呼んだ。学校で一番広い教室に全員が集まり、生徒の机の二つをつきあわせ、班員はその周りに座る。班長は、班全体が合同学活の議長の方を向くように指導する。

会の流し方

- 1 姿勢・礼 2 点検班の発表 3 点検班について
- 4 目標について 5 レク(5分)
- 6 係について 7 伝達 8 その他 9 特別議題
- 10 議長のまとめ 11 先生の話
- 12 姿勢・礼

最初はレク(歌かゲーム)に指導の力点を置いた。生徒は慣れていないので白けていたが、教員が事前に練習し、率先してやろうと呼びかけた。係としては、レク係(5分間の遊びを計画し準備する係)と、整備係(学校中に花を飾る係)を置いた。どちらの係も班立候補制にし、やらされる係から自分たちでやる係にした。最初は何の班も立候補しなかったが、一つの班が立候補すると、他の班もどんどん立候補するようになった。遊びも教師にやらされるより、自分たちでやる方が楽しいから、雰囲気がどんどん変わっていった。整備係(花係)も、教室、廊下、便所、職員室など全校に花を飾るようになってくる。ここまでは1年以上の時間がかかった。

掃除を縦割り班でやる実践はよくみかける。しかし、実際の状態を聞いてみると、上級生が適当にさぼり、下級生にそうじをやらせている例が多い。私の勤務した中学校では、日常の班活動の中に掃除と係活動がある。掃除は、班の協力を作り出す上でなくてはならない活動であった。

しかし、全員が掃除をしているので、お互いの活動が見えない。教員が見て回ると「やらされている」という感じになるので、点検班を置いた。点検班は週間の班順番制で、①全

員が協力できているか②終わりに班会をやっているかを点検した。また、「今日の優秀班は3班です。拍手してください。」等と点検結果を放送で発表した。また、週の最優秀班は合同学活で、全員の前で発表した。

この実践を通じて、掃除の状態が以前とは全然ちがってきた。さぼる者もいないし、掃除ができてない箇所を探して一生懸命するようになってきた。掃除が楽しそうになってきた。こうした状態になるまでに余り時間はかからなかった。

(3) キャンプの実践

学校での日常生活の中で、生き生きとした活動が行われるようになった。私の担任していた学級でも、いつの間にか男女の仲もよくなり、勉強の雰囲気もよくなってきた。しかし、学校行事に参加しない者が中2に二人、中1に一人いる。この生徒たちに参加を促すには、みんなが行きたいなあと思う計画をたてる必要がある。それは海だと考えた。安上がりに行ける場所を探し、知り合いの教員がいる浦の内小学校池の浦の浦分校に決定した。日曜日に分校まで視察に行き、水泳のできる場所、ハイヤーストームのできる広場、飯ごう炊飯のできる場所、寝泊まりのできる教室等を確認した。その後、2泊3日の原案をつくり、職員会に提案して全員一致で決定した。問題は、生徒の方で全員一致が可能か否かである。このときの生徒側の議長は、3年生の生徒会長であった。

議長 ただ今、先生から提案のあった海浜学校について話し合います。質問はありませんか。

1班 海に行ってどんなことをしますか（ちゃんと書きちゃあらや、ようみんかの野次）

教員 みんなで泳いだり、魚をとったり、キャンプハアイヤをやったり、飯ごう炊飯をやったり、遊んだりして、思い出の一つになると思います。非常に水もきれいで、景色も良く、遊んだり泳いだりするには最高のところですよ（えいねや、行こう、行こうの声）。

5班 みんなが行くようにせんと、いかんがですか。

教員 そうです。全員が行けない場合は、学校行事にならないからやめます。

議長 他に質問がありませんか。なければ全員参加できるか確認の班会、5分、始めてください（行事に参加しない生徒のいる班はもめている）。

議長 班会を止めてください。全員一致で行くことに賛成の班は手を挙げてください。1班、3班、5班です。2班と4班は全員一致でないわけですね。

2班 もう一度班会をする時間を下さい。

2班には例の2年生と1年生がいる。3年生の班長は一生懸命「行こうや」と誘っている。今年になって新任の教師が

来て、面白くないことばかりやらされて、教師の提案には反対しようというムードが3年生にあったが、今度の提案は、3年生は大賛成で何とか実現したいというのが本心であった。しかし、3名の生徒は黙って、首を横に振るだけであった。

議長 このままでは進展がありませんので、新しい意見が出るまで、もう一度班会をやってください。7分間始め。

議長 止めてください。何か意見のある班はありますか。

3班 はい、意見を言います。今まで海に泊まり込みで行ったこともないし、みんなで泳いだり遊んだりするのは楽しいことなので、ぜひ全員で行ったらよいと思います（拍手が起こる）。

2班 行きたい者が行ったらよい。行きたくない者を無理に連れて行っても面白くない。

4班 そうよ、そうよ。嫌な者を無理に連れて行っても、連れて行った者も、連れて行かれた者も面白くない（シラーとした空気が漂う）。

3班 でも、行ってみたら面白いかもしれないし、それに全員参加でないとこの行事はやまってしまうので、ぜひ、行くようにして下さい（賛成の声、拍手）。

討論は続審議として翌週に持ち越された。3年生は、真剣に説得していた。男子生徒も、脅すだけでは行く気に変更させることができないと考え出し、楽しい行事だと説得を試みていた。2年生の女子も3年生の女子と一緒に説得を試みていた。一週間後、合同学活の日が来た。

議長 これから、この前の続きの海浜学校について話し合います。討議に入る前に言って置きますが、今日結論が出ない場合は、明日（土曜日）の放課後話し合いを続けますので、明日は弁当を持ってきて下さい。できれば今日結論を出したいと思いますので協力をお願いします。

議長 班会を始めてください。この前と意見の違った班はありますか（みんな、2班、4班の方に目が向く。しかし、手は挙がらない）。

議長 もう一度、班会をやってください。

班会の雰囲気は、前回と違う感じがした。4班の一人が「行ってもよい」と言いだして班内で大きな拍手が響いた。残った一人も「うん」とうなずいた。2班もこのときとばかりに説得をする。2班の2年生も「行ってもいいよ」と言った。この班はみんなで万歳している。

議長 全員座って下さい。確認します。全員海浜学校に行く

ことに賛成の班は立ってください。

生徒全員が「うおー」と声を上げ、立ち上がり万歳、万歳と大喜びである。全校生徒が一つにまとまった瞬間であった。反対した3人も笑顔である。男女の対立、学年の壁、強い者と弱い者の差、学力の差等を乗り越えた話し合いの結果であった。この結果が今後の学校行事に大きく影響する。

3年生を中心に喜んで準備にかかっていたが、台風の接近で海が大荒れだと先方の学校の教員から連絡が来た。山の方は青空だが、波は風より先に来るので、これはだめだなと感じた。大変なのは子どもたちである。2週間もかけて全員一致で決めたのに、しかも、いま雨が降ってないのにやめるというのは納得できないと言う。しかし、海には5～6メートルの大波が打ち寄せてきているとので、海浜学校は中止せざるを得ない。そこで、行事そのものをやめるか、近所の神社の境内でキャンプをするかで討議し、全員一致で計画を練り直し、近所の神社の境内でやることに決定した。

当日は、例の3名が来るか心配したが、少し遅刻しただけであった。全員参加でキャンプ活動が実施された。お宮の横の谷川の河原で飯ごう炊飯をした。各班で夕飯の準備組と、テント張り組に分かれ準備を進めた。今までに経験のない取組であっただけに、子どもたち全員が生き生きと活動していた。翌朝から天気予報どおりに雨が降り出し、とうとうキャンプファイヤーもできずに中断せざるを得なくなったことは非常に残念であった。しかし、色々な収穫があった行事であった。特に、学校行事に初参加の3名にとっては、記念すべき日となった。初参加の一人のお母さんは、後日私に、自分の子どもはこの参加から変わり始めたとしみじみと話してくれた。

(4) 小規模中学校の実践のまとめ

私がこの学校に赴任してからいちばん困ったことは、人間関係の固定化であった。男女の対立が激しく、いつもギスギスしていた。勉強も掃除も協力できない状態であった。とにかく、雰囲気非常が悪い。自分の学級で何とかしたいと思っていろいろ試みたが、どうしようもなく、すべて失敗してしまった。縦割り班活動を行うようになってから、この雰囲気が全くなり、よい雰囲気に変わっていった。男女の対立もなくなり、掃除の協力もできるようになり、楽しいと感じる学校になってきた。学年の壁もなく、授業も普通の学校のようにできるようになった。どうしてこのようになったのかを分析してみる。

①縦割り班を置き、全教員の協力で行った。②縦割り班で、掃除と係活動を日常的に実践した。③週1回の合同学活で話し合いをした。④それが基本になって、行事の話し合い

が成功した。⑤その結果、楽しい行事ができた。⑥全体的に人間関係がよくなってきた。

この学校の2年目から、行事は子どもたちと一緒に考え、実行した。その例を挙げる。

- 春の遠足 「山の子遠足」と呼び、目的地までワラビやイタドリ等を取りながらいく。
- 班の昼食会 近くの谷川で班の飯ごう炊さんをする。
- 山芋取り 近くの山や谷川で山芋を取る。
- 銀杏取り 近所の山で銀杏を取る。
- 焼き芋大会 近所の谷川で火をたき、芋を焼く。
- 凧揚げ大会 手作りの凧をみんなであげる。
- 追跡ハイク 班対抗で、学校の周辺にコースをこしらえ、関門の課題に答えながら進み、タイムを競う

ずいぶんいろいろな行事を考えて実践したが、山の学校でしかできない楽しい行事であった。

①教師手段が実践で統一し、行動に移した。②その結果、生徒を大きく成長させた。③学年の間の大きな壁がなくなった。男女の壁もなくなり、全行が一つにまとまった。日常的な掃除活動が縦割り班であり、自分たちで点検し合い評価し合ったことが一因であった。④上級生がよきリーダーとして成長した。⑤学級の人間関係もよくなり、学習面でも男女が助け合うことができるようになった。⑥学校に来るのが楽しくなり、生徒の表情が明るくなった。⑦全校でいろいろな行事をやるのが可能になった。

何よりいちばん変わったのは、人間関係の固定化を改善し、協力することができるようになったことである。私自身、この学校では、教師が実践で統一することができれば子どもたちを大きく成長させることができると学んだ。このことは、その後の私の教師人生を大きく変えたことになった。

3. 山間地の小学校での「縦割り班」の実践

(1) 「縦割り班」を始めるまでの経緯

私の最後の赴任地になった山間地の小規模校・三水小学校での実践例である。私は校長として赴任した。全校児童は15名であった。私は今まで主に中学校に勤務しており、小学校に勤務するのは初めてであった。最初のうちは、小学校はよく分からないので、見学させてもらうという気持ちでいた。子どもたちは明るく元気で仲も良く、昼休みや放課後も運動場で遊んでいた。しかし、よく観察してみると、外で遊ぶ子は決まっていて、いつも教室にいる子、ひとりぼっちの子も

いた。私はこの状況を改善するため、縦割り班の活動を試みた。私以外の教員は男性一人・女性二人で、みなベテラン教師であった。校長の提案が押しつけにならないか心配しつつ、15 名の子どもたちを縦割りで活動させてみたらどうかと提案した。教員は誰も縦割り班を経験していなかったので、「なぜ縦割り班なのか、なぜ今なのか」など質問が相次いだ。私は、縦割り班の取り組みの必要性を次のように説明した。

- ① 縦割り班の活動で、一人でいる子をなくし、全校児童を仲良くする。1 年生から 6 年生までを一緒にして、三つの班に分けて活動する。
- ② みんなの「やる気」を引き出し、活動を活発にする。

以前の中学校の取り組みと違って、実際の経験に基づく自信ある提案であったから、説得力があった。と言うより、特に反対する理由が見当たらないのか、みんなでやろうと決定した。ただし、最初は校長がやるという条件であった。私にとっては、この条件は非常にうれしかった。

(2) 縦割り班の活動と子どもの変化

最初は教員主導で三つの班をつくり、合同学活で会をした。どの班も 6 年生が班長に選ばれた。最初に二つの係をおいた。遊び係（昼休みにみんなで遊ぶ計画を立て、実行する係）と、花係（学校のどこにでも花を飾る係）である。

議長 姿勢・礼。こんにちは、初めての会ですので、先生が議長をやります。議長が班会をはじめと言ったら班で話し合いを始めて下さい。やめと言ったら止めて議長の方を見て下さい。

議長 最初に花係をきめます。班全員の立候補で決めます。立候補するどうか、班会、はじめ（各班、班長がみんな一人ずつ、確認している）。

議長 立候補する班は、全員で元気に手を挙げて下さい。一人でも反対の人がいる場合は、班はみんな手を挙げてはいけません。それでは立候補する班。

議長 2 班と 3 班が立候補しました。そろって元気に手をあげた 3 班にやってもらいます。3 班に拍手。

議長 次に、遊び係に移ります。やるかどうか班会はじめ。

議長 班会、やめ。遊び係に立候補する班。1 班と 2 班が手が上がりました。1 班がみんなそろってやる気満々です。1 班に決定。1 班に拍手。

私が中学校と小学校で議長をやって感じたことは、やる気満々の意思表示は小学校の方が早いということである。小学生は、初日からやる気満々で立候補した。

翌日から花が飾られるようになる。昼休みは全員が外に出

て、係の班長の指示を待ち、みんなで遊んだ。登下校のとき、途中で花がないか気をつけるようになった。学校の便所には花瓶がないので、牛乳パックの空で花瓶を作り、工夫して花を飾るようにしていた。遊び係（後に、子どもたちが「元気係」と名前を変えて続けた）の班長は、次第に遊びの種が少なくなり、図書室で遊びの本を探して苦勞していた。女性教員に昔遊びを教えてもらったりもしていた。私もときどき一緒に遊んで楽しませてもらった。こうして、子どもたちは遊んだり、係の活動をしたりと、生き生きとみんなで学校生活を楽しむようになってきた。

(3) 話し合いと発表力

合同学活（後に「三水サミット」と名称変更）で係を決めたり、話し合ったりする中で、子どもたち一人ひとりの発表力が付いた。高学年だけでなく、1 年生・2 年生も発言できるようになった。

ある日、三水サミットで 3 班から 5 年生の発言があった。

3 班 議長 みんなに聞いてほしいことがあります。まみちゃん（1 年生の女の子）は、みんながバスケットでやっているのに、参加せずに校長先生のところにべたべたとひっついてみんながやっているのを見ていました。それはいけないことだと思います。

議長 （このときは 6 年生の女子）まみちゃん、どうして参加しませんでしたか。まみちゃん答えて下さい。

まみ だってボールがこんも、面白くない（半分泣きべそをかきながら、一生懸命答えている）。

5 年生の女子 それでも他の 1 年生はやっているやいか。

まみ だって、おもしろくないもん（とうとう泣き出した）。

議長 このことについて班会をやして下さい（まみちゃんは泣きじゃくっている。1 班の班長は、まみちゃんの背中をなでながら班内で話し合っている）。

議長 意見のある班はありますか。2 班どうぞ。

2 班 はい、2 班が元気係でした。バスケットを計画したのは、僕たちですが、確かに上級生だけが楽しんだということがあります。今度からそういうことも考えて、遊びも計画するようにします。まみちゃん、ごめんなさい。

議長 他に意見はありませんか。1 班どうぞ。

1 班 3 班の中に、時々いじわるをいったり、したりする人がいます。意地悪をしないで下さい。

3 班 はい、気をつけます。

議長 以上で、サミットは終わります。

このことを契機として、みんなが発言するようになり、よく考えるようになった。この話し合いが基になって「泣かな

い、すねない、みんな元気に遊びましょう」という「遊び憲章」が作られた。

(4) 開かれた学校

学校内ではみんなが活発に活動していたが、その活動を校内に留めず、地域に開かれた学校にしたいと以前から考えていた。山間地の学校が地域の活性化に参加し、地域からは子どもたちを育てることに力を貸してもらうようになりたいと思った。既に学校では、地域の方々に農作業等を教わる「地域先生」という交流を始めていた。具体的には、小さな田んぼを借りて「お米先生」、畑をかりて野菜をつくる「白菜先生」や「大根先生」、こんにやくいもを加工する「こんにやく先生」や漬物を漬ける「漬け物先生」などである。季節に応じて学校に来ていただくこともあり、「地域先生」の御自宅や田んぼまで出かけていくときもあった。子どもたちは田んぼに入った経験がなく、苗を植えるときは大騒ぎであった。稲刈りも体験した。また、学校の運動場で、昔ながらの足踏み脱穀機で粃を落とし、「とおみ」という手まわしの風送り機で軽い粃を飛ばすことも経験した。

このように特定のひととの交流はあったが、地域のみんなを集める行事がない。そこで、小学校で、子どもたちを中心とした「三水祭り」をやりたいと職員会に提案した。職員会では多少の意見はあったが、「子どもたちに提案してみよう」と賛成してくれた。農作業をいろいろ体験してきたので、収穫祭のようなものがないということになり、子どもたちの「三水サミット」で提案された。

議長 今日は、みんなに考えてもらいたいことがあるので、先生（女性教員）が議長をやります。姿勢・礼。今年も沢山のひとに、集まってもらって、楽しい運動会も終わりましたね。終わったところで、何かやりたいと思いませんか。（思う、思うの声）それでは何をやりたいか、班会ははじめ。

（もう一人の女性教員が一つの班に入って、ヒントを与えている。その班は活気がある。）

議長 班会 やめ。意見のある班ありますか。元気に手の上がった3班どうぞ。

3 班 いろいろ自分たちで作ってきたものを食べて貰うような、収穫祭がいいと思います（賛成、賛成の大声が湧き上がる）。

議長 今の3班の意見に賛成の班は立って下さい（賛成、賛成と大騒ぎ）。座って下さい。全員賛成で、3班の意見のように決定しました。

後日、その行事は「きらめきパラダイス」と命名された。どんな内容にするかは、教員と班長会とで相談しながら決め

ていった。係は班立候補で決め、招待状づくりの班、歓迎アチづくりの班、会場準備の班と、分担を決めて準備にかかった。保護者たちも、子どもたちが一生懸命頑張っているのに何もしないのは気が引けると、協力を申し出てきた。本当に色々協力してもらった。

(5) 「きらめきパラダイス」当日

待ちに待った「きらめきパラダイス」の当日がやってきた。吐く息も白く、運動場も、かちかちに凍り付いている。始まる時間の9時になっても、お客さんは誰もこない。子どもたちは心配顔である。しかし、15分ぐいすると、地域の人たちがぞくぞくと集まってきた。子どもたちは、自分でつくった法被をきて、受付で参加者に入学許可証を渡して会場まで案内する。餅つき場では、保護者の威勢の良いかけ声と共に、餅をつく音が山に反響してこだまする。子どもたちも、慣れない手つきでもちをついたり、丸めたりして大喜びであった。まもなく、橋本知事夫妻が到着する。小さい子どもたちが走り寄って、知事夫妻の手を取って歓迎する。行事は次々と進行していく。小学校の全体の歌と各学級の演し物が終わると、特別参加の幼稚園児の歌やダンス、続いて PTA の合唱等どれも最高のできばえであった。また、「知事さんといっしょ」のじゃんけんゲームは、地域の人たちの笑いを誘う楽しいひとときであった。

昼食は、子供達が自分で作ったお米のおにぎりと、自分たちで漬けた漬物、保護者が朝早くから作った豚汁を出した。参加者の楽しい雰囲気は、最高であった。午後の一番は「きらめき市」である。子どもたちの作った白菜や大根やかぶなどの野菜類と、いもてん、いもちつぶ、つけものなどが売られた。その横には PTA の協力によるバザー品が並ぶ。

「これから きらめき市がはじまります」。子どものアナウンスと共に、お客さんがどっと押しかけた。子どもの「いらっしやい、いらっしやい」の呼び声、お客さんとのやりとり、そのにぎやかなこと。知事も売り場の方に入って「いらっしやい、いらっしやい」と、子どもと一緒に声をかけてくださった。熱気は最高潮に達した。品物が全て売り切れてしまったとき、子どもたちの「バンザイ、バンザイ」の喜びの音が響き渡った。最後は、おみこしを繰り出して「きらめき祭り」だ。鳴子両手に運動会でも練習した「よさこいサンバ」を軽快なリズムとともに、自信満々で踊った。幼稚園児もおみこしを担いで「ワッショイ、ワッショイ」でクライマックスを迎えた。最期に、児童会長が「きらめきパラダイス」に取り組んだ苦労とみんなで協力してやりあげたよろこびを語り締めくくった。その一生懸命言う姿に感動して涙ぐむ人もいた。知事夫妻もたいへん感動されたようであった。地域に人の住んでいる家の戸数は 82 軒であるが、この日の参加者は、120 人であった。「これは、過疎の村の新しいお祭りの方

向性を示したものかもしれませんね」と参加者の1人がつぶやくように言ったのを、私は聞いた。この行事の成功の影に、地域の人たちや PTA の人たち援助があったことを、子どもたちは体で感じとっていた。

4. おわりに

この実践で子どもたちが成長した点をまとめる。①上級生リーダーが能力に関係なく成長した。②遊びに全員が参加し、楽しくて昼休みを待ちかねるようになった。③遊び憲章「泣かない、すねない、みんなで楽しく」を作った。④みんなで協力する楽しさを体験するようになった。⑤低学年でもどんどん発表できるようになった。⑥学校生活で直してほしいことの要望などもできるようになった。⑦花を自分たちで飾り、楽しみが増加した。⑧行事に積極的に取り組みだした。⑨思いやりや、優しさが育ってきた。

最近の学校では、いじめ・不登校・子どもの自殺等の問題が深刻になっている。これらの問題は、子どもどうしの人間関係が原因になっている。小規模校では、この人間関係を直すことが難しい。三水小学校でも、その子供達の人間関係のひずみに気がつかなければ、いじめや不登校も起こる可能性があったかも知れない。それゆえ、縦割り班の実践は、現在でも重要な実践であると考ええる。

